

経コツ次世代の会「紀州和華牛牧場視察」を開催

経コツ次世代の会の第5回例会を8月4日（水）、湯浅町山田にある「紀州和華牛湯浅エコファーム実証牧場」において開催した。



エコマネジメント㈱では、県内の食品加工会社から出た食品廃棄物（食物残渣）を自社で粉碎・発酵処理を行い、製造したエコフィード飼料に、自社所有の実証牧場で繁殖・育成・肥育を行い、出荷までの一環した取り組みが注目されている。紀州和華牛は仁坂県知事により命名され、和歌山のブランド牛として知られている。

視察の冒頭、エコマネジメント㈱の阪口社長より「湯浅牧場は4つの牛舎で黒毛和牛を飼育する県内最大規模の牛舎。御坊牧場と合わせ約280頭を飼育するまでに成長した。紀州和華牛をもっと多くの方に知っていただきたい。」と挨拶された。

続いて山中獣医師より飼育の状況を説明頂きながら牛舎の視察を行った。実証牧場は、子供を産ませて育てる繁殖と、子牛を買ってきて育てる肥育の両方を行う一環経営を行っている。通常の国産和牛はビタミン制限をして脂身をつけるが、和華牛はビタミン制限を行わずに育てられるため、脂肪量が少なくやわらかい赤身肉が特徴。また雄牛は去勢して飼育することで身が柔らかくなる。24か月以上の長期にわたり肥育された牛が、現在は月10頭程度が出荷されているとのこと。

牛舎内は、においもほとんどなく清潔で、4人の従業員で徹底的に管理されていた。

視察後は、和歌山バーベキュー協会によるホストが焼く本場のバーベキューの実演と、有田川町長田にあるクラフトビールのブルワリー（醸造所）「ノムクラフト」の有井社長から、閉園した保育園を活用した地域活性化の取り組みについてご説明頂いた。



エコマネジメント 阪口社長挨拶風景



山中獣医師からエコフィードの説明



牛舎内の視察風景



生後3日の子牛と母牛